

辺野古新基地反対! 現地行動!



全国港湾辺野古新基地反対対策委員会は、大会で確認された「辺野古新基地建設反対の取り組み」と、那覇国際コンテナターミナルの視察を含めた一連の行動を確認し三月一日〜四日の日程で沖縄激励訪問を行った。

訪問団の糸谷委員長、遠藤副委員長、諸見事務局長、市川事務局長、鈴木委員、真島委員、竹内委員、佐藤委員、山田委員、岩崎委員の十名と沖縄港湾より山口議長、永山事務局長の十二名は、三月一日午後、那覇に到着、那覇国際コンテナターミナルに向かい、視察を行った。ターミナルでは山内ゼネラルマネージャーに案内をお願いし、那覇国際ターミナルの諸計画（フイリピン会社資本による国際貨物獲得拡大）の説明から、近年の状況（国際貨物獲得の厳しさ、ターミナル運営の現状など）の報告を受けた。

また、テレビでも放映された大手三井倉庫の参入の内容なども詳しく説明があった。視察当日、たまたま作業船はなく、ガントリークレーンやキャリアなどの動きは見られなかったが、ターミナルの規模を確認できたこと、ターミナルの接する状況は一目で把握した。

ターミナル視察後、沖縄港運協会へ表敬訪問を行った。港運協会では、照喜納会長、翁長事務局長が対応した。糸谷委員長より、全国港湾として、辺野古新基地建設や三井倉庫のターミナル運営参入問題について意見交換を含めて来沖したと挨拶を行った。

照喜納会長は、ターミナル資本が三井倉庫に代わり、十年後までに貨物取扱量二十五万TEUを目指すとした。糸谷委員長から、当初計画も厳しい現状であり、大手三井が参入しても十年でこれだけの数字になるのは難しいのではと指摘した。

ターミナル視察や沖縄港運協会訪問を夕方までに終えて、午後六時から沖縄港一六春闘決起集会に訪問団全員で参加した。沖縄港の仲間総勢三五〇名が結集し、全国港湾の要求内容の確認、獲得に向けた取り組みとその決意表明され、糸谷委員長の団結がんばろうと締めくくった。

訪問二日目の三月二日早朝五時半、ホテルロビーに集合して辺野古早朝行動に出発。午前六時半より、辺野古キャンプシュワブ現地闘争団と合流し最前列に座込んだ。早朝にも関わらず座り込みにはすでに一〇〇名を超える人が集まっていた。

現地指揮者沖繩平和運動センター山城議長から、辺野古建設では多くの土砂が県外各地、各港からやってくる。その全国の港で働く労働組合の仲間が駆けつけてくれたと、全国港湾を紹介した。

糸谷委員長は、一票の差も選挙の結果。民意をはきりさせた県知事選挙、衆議院選挙、いずれも辺野古新基地を作らせない圧倒的な民意が示された。にも

辺野古新基地建設に反対する決議

安倍自公政権は、辺野古新基地建設を暴力的且つ強権的に進めている。われわれは、沖縄県民の意思を踏みにじり、平和と安全、幸福を希求する国民の願いをも無視する暴挙に断固として抗議するものである。そして、新基地建設の中止と普天間基地の無条件撤去を強く求めるものである。

政府与党は、世界一危険な基地とされる普天間基地を固定化してはならないとして、その代替機能として辺野古新基地建設しかないとしている。しかし、この論理は一片の道理はおろか、その良識さえも疑わざるを得ない暴論である。

第一に、そもそも普天間基地は、米軍が沖縄県民を居住地から退去させて、建設したものであり、沖縄県民が自主的に提供したのではなく、それが危険だから代替施設を差し出せとの論理は、正義も正当性もない。

第二に、普天間基地と新基地建設を一对のものとする誤りである。危険な基地と認めるなら無条件閉鎖し、沖縄県民に返還すればいいだけのことである。新基地建設さきにある論理は絶対に納得できるものではない。

われわれ港湾労働者の願いは、平和な港で、商船や港湾物流施設で働き続けることである。その意味で、戦争法によって港湾が兵站基地となったり、自らの仕事が戦争と不可分なものとして位置付けられることに、強い懸念を抱くだけでなく、それ以上に、港湾労働者が故に命の危険さえも有り得ることに強い警戒感を共有している。

また、新基地建設の強行となれば、それに必要な土砂の搬出・搬入作業が港湾で行われることになる。それが結果的に、沖縄県民や沖縄の港湾労働者の意に反して、新基地建設に加担することになり、我われは、これを到底受け入れることはできない。

戦後、政府与党は、一貫して基地があるが故の不条理を沖縄県民に押し付けてきた。戦後70年を経て、なお、その重大性を見直そうとしないばかりか、新基地を押し付けようとするに怒りさえ覚えるものである。沖縄県は基地依存型経済と言われ続けてきたが、観光産業をはじめ沖縄にしかない自然を生かした産業構造へと転換が進み、基地関連事業は、いまや5%程度に下がっている。この事実を無視して、「沖縄振興予算」を基地押し付けの代償として正当化する政府の旧態依然たる姿勢は、県民の自治と努力を「権力と金」で押しつぶそうとするものである。

以上の立場から、辺野古新基地建設工事を直ちに中止し、普天間基地の即時閉鎖と無条件撤去を日本政府に対し強く要求するとともに、埋め立て土砂の搬出・入阻止を含めた、港湾労働者としての新基地建設反対の闘いを力強く推進することを決議する。

2016年2月29日

全国港湾労働組合連合会 第6回常任中央執行委員会



つきりしているのに不条理だ。ここにいる警備員、警察、建設業者や政府は恥を知るべきだ。我々全国の港湾で働く仲間は、辺野古に基地を作らせない。全国の仲間と共に闘うと、力強い連帯の挨拶に座込みの参加者から、歓迎と連帯の大きな拍手とガンパロウの声が上がった。

座り込みを続けて三時間ほどが経ち、当日の資材搬入車両の動きがないことから現場を撤収した。引き続き、米軍施設、うるま市天願橋、中城港湾、嘉手納飛行場、普天間飛行場を廻りながら那覇に戻る。夕食は訪問団と沖縄港湾と懇親会を開いた。

三日目の三月三日午前十時半、沖縄県庁を訪問し、翁長沖繩県知事と会見を行い、全国港湾中央執行委員、全国港湾中央執行委員田事務局局長代理に手交した。記者クラブでは全国港湾の組織構成、取り組み、今回の訪問趣旨などを説明した。

短い時間でしたが、時の知事と会見できたこと、テレビ、新聞各社も駆けつけ、ラフそれぞれの日程を無事終了した。

かかわらず、一方的に基地建設を推し進めるのはどう結果、翁長知事の態度ははかばかしくない。選挙の座り込みを続けて三時間ほどが経ち、当日の資材搬入車両の動きがないことから現場を撤収した。引き続き、米軍施設、うるま市天願橋、中城港湾、嘉手納飛行場、普天間飛行場を廻りながら那覇に戻る。夕食は訪問団と沖縄港湾と懇親会を開いた。

三日目の三月三日午前十時半、沖縄県庁を訪問し、翁長沖繩県知事と会見を行い、全国港湾中央執行委員、全国港湾中央執行委員田事務局局長代理に手交した。記者クラブでは全国港湾の組織構成、取り組み、今回の訪問趣旨などを説明した。

短い時間でしたが、時の知事と会見できたこと、テレビ、新聞各社も駆けつけ、ラフそれぞれの日程を無事終了した。